

多様性社会におけるリーダーシップ度の測定

21世紀は、一人ひとりの違いが尊重される多様性のビジョンに立つ時代だとするならば、新世紀のリーダーシップの適正は次の5項目になるだろうとわたしは考えている。

ビジョンとアクション

多様性の尊重

アサーティブ・コミュニケーション

エンパワメント

ネットワーキング

この5つの主要な適正を念頭において、多様性社会におけるあなたのリーダーシップ度を測る診断表を作ったのでやってみよう。

目的 多様性リーダーシップの適正をどの程度そなえているかを知る。

時間 30分

人数 何人でも良い

材料 ワークシート「あなたの多様性社会におけるリーダーシップ度の測定」を人数分用意する

プロセス

1.ワークシートを全員に配って記入してもらおう。

2.平均値を出すように指示する。

平均値が4～5の人は多様性社会におけるリーダーシップの適正をすでに十分に備えている。1～2の人はリーダーとしての適正を再確認すると同時に多様性尊重の理解を、自分とは異質な人との出会いの経験を重ねるなかで培うことを努めよう。3の人はリーダーとしての適正は十分に備えていても、多様性の尊重の理解をもっと深めるとよいかもかもしれない。あるいは多様性理解は十分でもリーダーとしての適正を意識的に身につけるとよいかもかもしれない。

あなたの多様性社会におけるリーダーシップ度の測定

	めったにない		ときどき		いつも
1.わたしは自分の属す集団のビジョンを明確に持っている	1	2	3	4	5
2. 集団の中での私の地位にかかわらずわたしは人一倍良く働く。	1	2	3	4	5
3.わたしとまったく異質の人びと（たとえば外国人、性的マイノリティ、障害者、異性など）と接するとき、その人から学ぶことがたくさんあると思う。	1	2	3	4	5
4.わたしは自分が話すより、人の話を聴くように努めている。	1	2	3	4	5
5.異文化交流の場（違う国の人、違う年齢、障害のあるなしなど）に参加する機会を積極的に求める。	1	2	3	4	5
6.対立や誤解があったときは、アサーティブに相手とコミュニケーションできる。	1	2	3	4	5
7.人の能力を、雄弁さや効率性のみで測らない。	1	2	3	4	5
8.自分の持つ偏見に意識的である。	1	2	3	4	5
9.相手の長所をどう活用するか考えている。	1	2	3	4	5
10.ネットワーキングが得意。さまざまな団体、個人との仕事を通じたつながりや協力関係を作るのが上手だ。	1	2	3	4	5